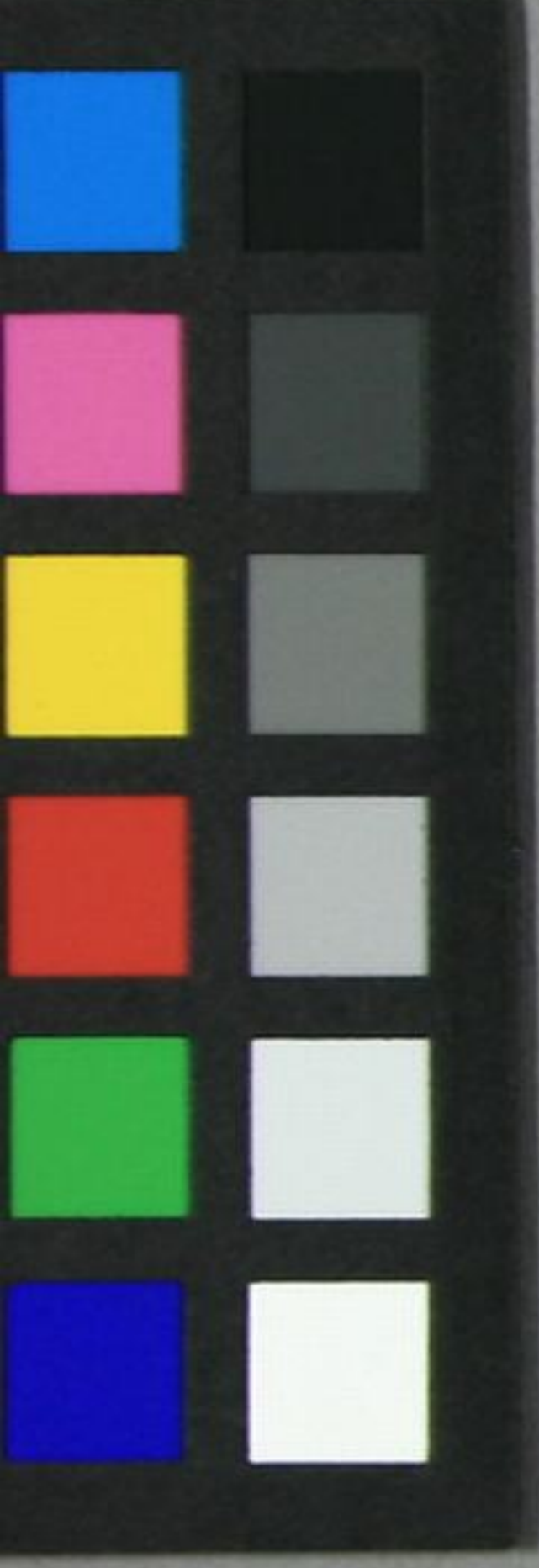


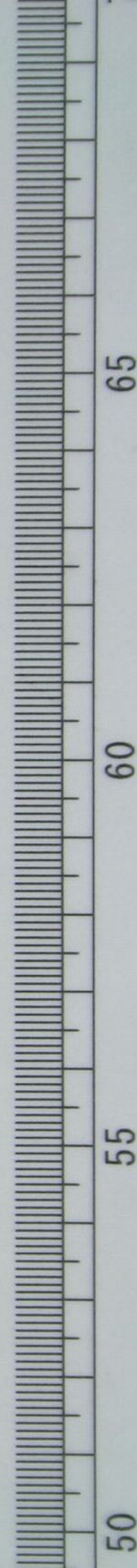


武野光吉編集
浪華

史略

三編

下



A 414
6

48-7641

浪花史畧第三輯卷之下

東京

武野光吉編輯

○僻邑拂て幸村青雲赴事

紀州九度山の麓ある真田の寓居へ大坂城より招の使節
到りけり幸村即今ふ承諾して俄然瓜牙の旧藩
を集會し各々謀畧の號令を定め然して后庄官始
り村里の百姓のこらば集めり留別の酒宴を開き田
畑邸山林までも蒼生に分配して惠投ければ土人

等らの咳せき子の乳汁ちゅうじを慕もふがどく恩義おんぎを感かんずる苗別なへべ
を悲かなとせめて陌路まくろを送おくり申まをたしとく荷物ひりやうをかげ
馬うまを曳ひき浪花ななみをさしと操うさ出でま此勢このいき都合つぐひ二百八十
一個齊整せいせいとして進来しんきる坂城さかぎより幸村ゆきむら迎むかへ
て織田あそ有樂齋うらくさい浅井あさひ周防守すうぼうし等出馬でうばせしが織田あそ曰い
いふや浅井あさひ氏し真田まへだ頗さうる軍學ぐんがくふ通とト那仏なぶつ国の
拿破なは崙らん我朝わてうの楠氏なんしをも欺あざむくべき才さいなりとも开ひ
関せきヶ原がはら戦争せんそう以来いらい奉還ほうげんありと土人どたんふ交際かうさい商法しょうはふ立

る這星霜このしやうそう百事ひゃくじ心こころふ忘わすれぬを嘆なげう形容けいようも醜惡しうご
かゝんと言いふ浅井あさひも黥頭えいとう何なんも我々われわれ花麗はなれる形かたち
容那ようなが鼻はなを捻ねりむんば以後いご吾儕われらを侮漫あなづべ一ひと這日このひを
晴はれと形容けいようんと両隊りやうたいの人数にんずも阿部野あべのも稍や押出おしだせ
し時ときも物見ものみの個々ひとりひとり来りて倉卒そそ先勢せんせい来り候きこと
報はうるも両將腹りやうしやうはらを抱かかて大おほい笑わらひ先勢せんせいも何なんも笑わら
止々ししとゝの間まもあしとせ六文錢ろくもんせんの大旗おほなほを隊頭たいとうふ翫あそ
し猩々せうじやう緋ひの袋ふちを覆おほたり弓銃炮きゆうしやうぱうを二行ふたぎやうふ列りね齊せい々じやうとして

徐来るふ兩隊の之を觀て諸こそ真田の凡人はあゝと
俄然ふ禮義を繕ひの道の傍ふおて兩将等しく云々
是へんふふ真田殿ふ哉と問ふと馬乗の武者
馳を抜て真田が家老海野三左工門ふてけ今日の先
乗鎧を着しへば馬上河免と行過るふ兩将の袖接
引く若野狐の魅すふりぐざやと眉を唾以てありせる
折柄復押来る望月主人之も海野と同前あれは有樂
齊の坊主天窓をお叩き諸々是程の先勢進の奇怪

々と惘々程ふ有樂が乗馬其主と侮漫一草食て
中満けん物音高く放屁をあらいたる有樂の馬上ふ仰
天して儲さるゝ炮發せらる真田が二心の謀畧あら
んと馬の鞭打逃出ずば隊中の歩兵等も俄然ふ色め
き騒乱を浅井原来笑僻りては腹を抱く制しつゝ狼
狽ふふ有樂殿貴公の乗馬が放屁ありと云ふ再度
夢えゝ如く梟持あゝぬ周章も那笠翁が十種曲ふ
自らの昆々芳とりたる類う有樂入道は十面造り

民とも思はず那々處へ真田幸村馬上の行粧華美の
 百騎餘り左々右々隨ひ隊伍素とず押来り西士に
 對し其石を問ひ小生へ真田左衛門佐幸村あり
 方今公命ふ依り入城致せむ六合の敵を誅戮し豊
 臣の天下ふ飯せん支掌中ふり各將の先御越りれ
 と禮義正しく演るめぞ兩將へ尚威風ふ吞れと碎
 るが如く公ふ進達由べいと飯城せり斯く真田
 の兵隊入城せりうハ大坂めりハ暗夜ふ灯ひを得

たるが如く即今右府公の幸村を召く大元帥の頼む
 べきその命あり幸村畏る君臣の義を結び之より軍
 議ふ及びけり

○大野漫小兵て今井許を取囲事
 附 葛塚ふ茨木藩戦死の事

却説 斤桐且元の領分茨木城へ立籠とり人とも寡兵
 と大坂の大軍建撃つるに微塵ふりるべいと京師の
 諸司代板倉勝重の戦ふ近境へ命令し片桐の
 力をべいと時ふ丹波の國の税官村上三右衛門二百餘

人^{ひと}み^みく^く一^{ひと}番^{ばん}小^{せう}耻^ぢつ^つけ^けけ^けと^と近^{ちか}遠^{とほ}より^{より}人^{ひと}数^{かず}追^お々^々加^く日^{にち}
 り^りて^て二^{ふた}千^{せん}余^{あまり}人^{ひと}小^{せう}及^{およ}り^り斯^{しか}り^り一^{ひと}起^{おこ}ふ^ふ大^{おほ}野^の等^ら大^{おほ}小^{せう}憤^{ふん}
 発^{はつ}一^{ひと}詠^{うた}我^{われ}致^{いた}さ^さべ^べ一^{ひと}と^と軍^{いくさ}馬^{うま}を^を差^さ向^{むか}ふ^ふ茲^{こゝ}に^に故^{ゆゑ}あ^ある^る
 更^{また}ふ^ふて^て片^{かた}桐^{とう}主^{しゅ}膳^{ぜん}正^{せい}々^々妻^{さい}女^{にょ}の^の堺^{さかい}あ^ある^る今^{いま}井^い宗^{そう}薫^{くわん}許^{もと}す^す
 け^けり^り密^{ひそ}ふ^ふ奪^{うば}取^とへ^へき^き謀^{はかり}策^{さく}あ^あれ^れば^ば人^{ひと}あ^あつ^つて^て片^{かた}桐^{とう}へ^へ報^{はう}
 せ^せ市^{いち}正^{せい}の^の舍^{しや}弟^{てい}が^が耻^ぢ辱^{じやく}ふ^ふる^る假^か令^{しやう}火^ひ水^{すい}の^の中^{ちゆう}に^にも^も
 け^けよ^よ救^{すく}ず^ずん^んば^ば有^ある^るべ^べく^くず^ずと^と俄^{あわ}然^なと^と家^け臣^{しん}多^た羅^ら尾^び半^{はん}
 左^さ工^く門^{もん}富^{とみ}田^{でん}太^{たい}郎^{らう}助^{すけ}等^らふ^ふ尾^び輕^{けい}二^{ふた}十^{じゅう}個^こと^と添^{そへ}て^て主^{しゅ}膳^{ぜん}

か^か室^{しつ}を^を伴^{ばん}ひ^ひ来^きる^るべ^べ一^{ひと}と^と命^{めい}を^をろ^ろふ^ふ家^け臣^{しん}等^らの^の畏^{おそ}る^る出^いる^る
 一^{ひと}十^{じゅう}月^{げつ}六^{りく}日^{にち}堺^{さかい}の^の津^つふ^ふ赴^{おもむ}く^くん^んと^と倣^{なま}ま^まふ^ふ大^{おほ}坂<

稍横雲の晴ゆくすく黒煙天を覆ふ不審と片桐
が兵士の意も空ふ今井許へ馳付る早大野が打手
横島玄番丞明石掃部之介が兵隊一千余人宗薫が宅
を取囲む叫喚風のほふ聞くゆゑ茨木藩も九
死一生と心を決し光々たる刃を接連足輕二十個を一
回し備へて大野が兵隊の後より思ひも寄らぬ鯨波を
發し夜及の如くふ馳入る八方ふ切破るを敵軍一方の
血路を開くふ茨木藩の今井許へ馳入る攻来る敵と火

花を散し防戦する宗薫之ふ力を得る片桐が兵士
向ひ生害と遂にける須臾防戦のしかしと言捨佛間
へ入ふける娘の名ふふ主膳正が妻女ふ容顔美な
る耳あらず性質猛々しく恣にける行の覚悟あり今更
敵の擒獲となり夫の名を汚すべき誰なる家に火を
懸よと呼びる声ふ名仕ふ女房等兩三個皆心ざら
剛なれば兼て用意の焼草を中戸の口ふ積重祓火
をかけ揚る黒闇地獄死を極する多羅尾富田も主人の妻

